

令和 7 年度 京都市立紫野高等学校経営方針

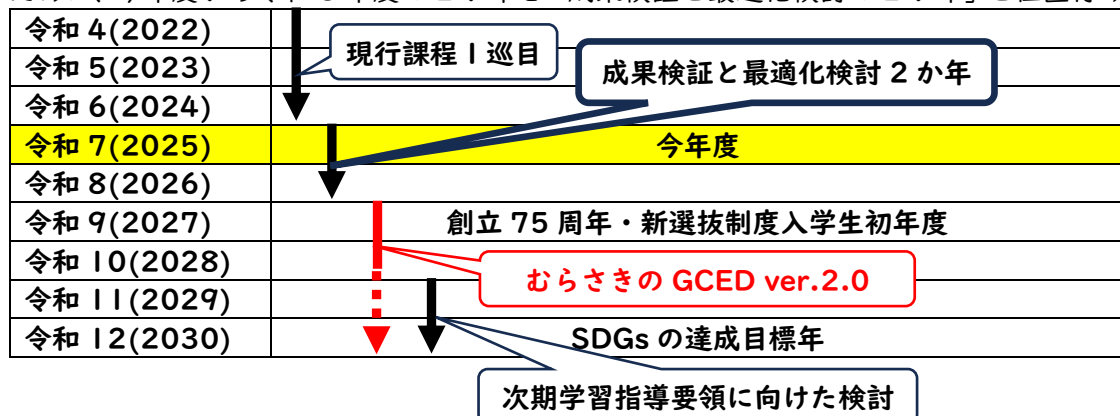
令和 7 年 4 月 1 日
京都市立紫野高等学校
校長 景山 晋之介

令和 7 年度の位置づけ

令和 7 年度は、学習指導要領のサイクルにおいては現行課程Ⅰ巡目を終えて最初の年度である。また、また、本校の沿革においては創立 75 周年を、京都府公立高等学校改革の流れの中では入学者選抜改革を、ともに目の令和 9 年度に控える年度でもある。

そこで、現行の教育目標「一歩踏み出す Global Citizen」を本校旧普通科英文系からユネスコスクール加盟及びアカデミア科創設の流れの集大成として捉えなおし、創立 75 周年を機に本校の歩みを振り返るとともに、今次学習指導要領後半に向けて、教育目標をよりよく具現化するために再構築した本校「むらさきの GCED ver.2.0」を高らかに発信する。

そのために、今年度から令和 8 年度の 2 か年を「成果検証と最適化検討の 2 か年」と位置付けたい。



重点方針（成果検証と最適化検討 1 年目）～世界に開かれた学校へ～

「むらさきの GCED ver.2.0」では、教育活動全体を通して、生徒が世界（地域、社会、海外等）に触れる機会を充実させることを目指す。そのために、今年度から 2 か年で将来構想提案書に基づく現行課程の成果を検証し、今次学習指導要領後半に向け、教育目標に照らした教育課程の最適化に取り組む。

なお、意見交流はカリキュラム委員会や教科委員会、企画会議等の各委員会を中心に、合意形成は運営委員会で行う。

1. 創立 75 周年を契機とした現行教育課程のマイナーチェンジ

教務部主導により、令和 8 年度教育課程申請と並行して、令和 9 年度教育課程申請に向けて各教科・科目の設定や配当の見直しを含む検討を今年から開始する。

また、総合的な探究の時間については、G C 教育部を中心に、探究活動の社会との関わりを深めることと、普通科・アカデミア科の内容の一本化を視野に入れ、複数年で段階的に改革、可能なところは今年度から新内容に移行する。

2. 選抜改革を契機とした国際系高等学校としての特色の再検討

令和 4 年度からの普通科オールアドバンス化に伴い、これまで対象学科やクラスが限定されていた教育活動の門戸を全体に開いた影響等もあり、アカデミア科の特色を再設定することが望ましくなっている。選抜改革プロジェクトチームを今年度も継続、入学者選抜と一体的にアカデミア科の在り方を検討、2 か年で校内合意・公表を目指すとともに、普通科も含む国際系高等学校としての存在意義を改めて強調する。

3. 風通しのよい職場環境の実現

校長室依頼のほか、教職員発案でもプロジェクトチームの新設を可能とし、実現したい紫野高等学校像を楽しく自由に議論できる空気を醸成する。「一歩踏み出す Global Citizen」という最上位目標に合致するアイデアであれば歓迎し、疑ってはいけない常識は皆無とする。ただし、運営委員会や関係各所間での合意形成を重視する。